

カンキツ黒点病の防除薬剤の探索

カンキツ黒点病の防除には、マンゼブ剤とマンネブ剤が主に用いられているが、エムダイファー水和剤（年間使用回数2回）が令和8年10月に販売終了する予定のため、代替となる農薬の探索を行った。

■ 黒点病とは

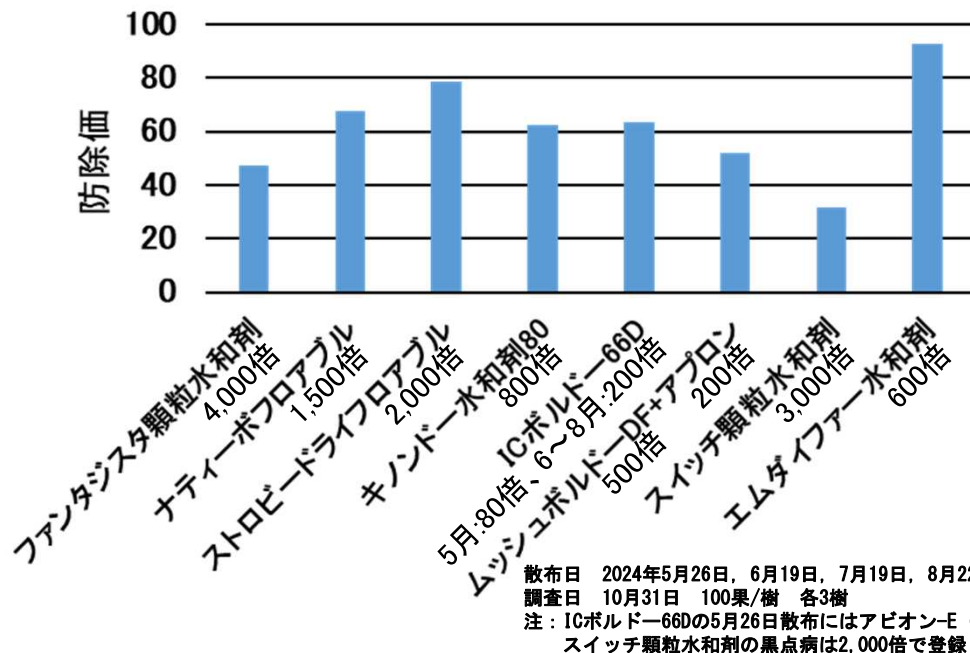
- 病原菌は糸状菌 (*Diaporthe citri*)
- 果実などに黒点状の病斑を形成
- 感染時期により、病斑の形状が異なる
- 伝染源は枯枝上で形成される胞子
- 胞子が降雨で飛散して感染



■ 試験の概要

- 各農薬を約1ヵ月間隔で4回連続散布（注：試験のため登録内容に準じていません）
- 樹冠中央部には、5月26日に伝染源（枯枝）を設置

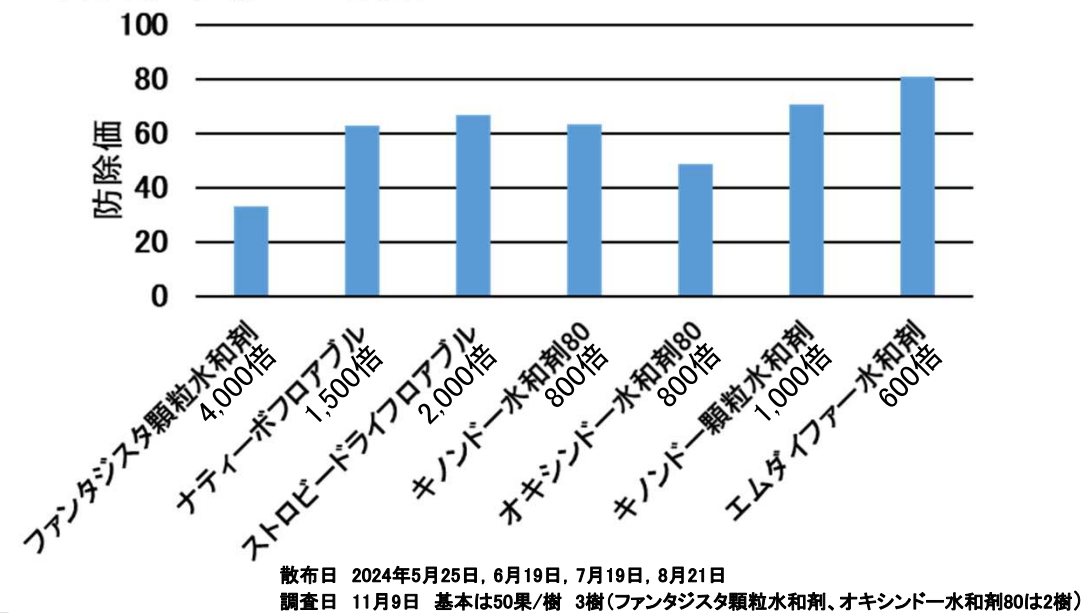
■ 温州ミカン（興津早生）での結果



■ 現在の防除体系と薬剤探索にあたって

- 開花期頃～秋季まで継続的に防除
- 主にFRACコード:M3のマンゼブ剤(ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤)、マンネブ剤(エムダイファー水和剤)を一般的な品種では、200～250mmの降雨または30日を目安に散布
- マンゼブ剤は年間4回以内、マンネブ剤は年間2回以内の使用
- 開花期頃や収穫前は、Qoi剤(FRACコード:11)などを散布
- 水産動植物に影響の大きい農薬はスプリンクラーで使用不可

■ 宮内伊予柑での結果



防除価がエムダイファー水和剤に匹敵する農薬は無かったが、スプリンクラーでの使用などを考慮するとストロビードライフフロアブルが有望と考えられる(試験継続中)。